

編集後記

前巻の『文化と言語』(Vol. 21, No. 1)の編集後記で、論文のみならず研究ノート、翻訳、書評といったものまで掲載の範囲を広げることを提案したのであったが、今回は書評と翻訳の2本の原稿しか集まらなかった。進行中の論文はあるけれども、いま少し時間がかかる様子なので、年度内に No. 2を出すことにして、今回はこの2本だけを掲載することにした。

かねて出版中の本学外国語学部ロシア語学科教授・相馬守胤氏他の翻訳によるシチェドリン選集全8巻が完結した。読みやすい翻訳並びに懇切な解説を提供された意義は大きい。この選集の批評・紹介として北海道大学の灰谷慶三氏の玉稿を頂戴することができたのは望外の喜びである。ご多忙中にもかかわらず、快くペンをお取りくださった同氏に対し、心からお礼を申し上げる。

鈴木淳一助教授による翻訳は、ロシア文学の文献が比較的乏しい我が国において、大いに意義あるものと思われる。同氏は、次号でも翻訳を載せる予定である。

1988年12月

編集委員 菅 沼 慶 一